KIORITZ

取 扱 説 明 書

iスタート
共立背負式ヘッジトリマー
RMEHT260



（社）日本陸用内燃機関協会
小型汎用エンジン
排出ガス自主規制適合証

⚠ 警告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

2003/06

はじめに

ご挨拶

・共立背負式ヘッジトリマーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

用途

・この背負式ヘッジトリマーは、軽量・小型に製造された２サイクルエンジン付ヘッジトリマーです。枝の直径が５mm以下の生垣や植込みの剪定、刈込みなどの作業に使用してください。

・このヘッジトリマーを使用する場合、この取扱説明書に書かれている目的以外に使用しないでください。

・機械を改造しないでください。

・整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。

本機の特徴 ； iスタート

・iスタートは、エンジンの始動時、スタータを引いたときの回転力がバネを介してクランク軸に伝わるため、ケッチンを感じることなくスムーズに始動することができます。
エンジンの始動は、スタータを素早く引かなければなりませんが、iスタートならそれが容易にできます。

取扱説明書について

・この取扱説明書には、組立や操作、整備に必要な事項が書かれていますので正しく効果的な製品の取扱いができるよう、よく読んで理解してください。説明をわかりやすくするため、使用している図は現品と異なる場合があります。

・単位はＳＩ単位（国際単位系）を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

・この取扱説明書は、いつでも読めるように必ず保管してください。
この取扱説明書が損傷により読めなくなったり、紛失した場合は、販売店から新しく取扱説明書を購入してください。

貸与、譲渡

・この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合、借りて作業をする人に、この取扱説明書とともに機械を貸与してください。
製品を譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。

おことわり

・本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。

・本製品は一部部品（エンジン部とフレキシブルシャフトなど）の組立作業が必要となります。

・ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

目　　次

はじめに 2
警告表示マークの意味 3
各部の名称 4
　各部の名称とその機能 5
組立 6
　背負バンドの取付 6
　フレキシブルシャフトの組立 6
　スロットルワイヤの組立 7
正しい作業のために 8
　作業者の体調 9
　保護具 9
操作方法 10
　燃料の取扱い 10
　エンジンの始動と停止 11
　基本的な作業方法 13
　作業上の注意 14
点検・整備 16
　整備の目安 16
　点検要領 16
　刈刃の手入れ 18
　キャブレタの調整 19
故障診断と対策 20
保管 20
　長期保管（60 日間以上）..... 20
仕様 21

⚠ 注意

スタータグリップを引いてから、遅れてエンジンが始動する場合がありますので、ご注意ください。

重要

- **iスタートは、滑らかにリコイルが引けるスタータです。**
- **スタータグリップが軽く引けない場合や、スタータグリップを引いてもエンジンが始動しない場合は、スパークプラグを外してください。更にリコイルを引いても重いときは、エンジン内部の故障ですので、そのままお買い求めの販売店へご相談ください。**

iスタートリコイルスタータ分解禁止
スタータグリップが軽く引けない場合は、スタータ内のバネが巻き込まれた状態ですので、スタータケースを外さないでください。

警告表示マークの意味

⚠ 危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丸に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する重要な注意事項です。

- **この取扱説明書で解説されている機械には、下表の「警告表示マーク」のラベルが貼付してあります。ご使用前にマークの意味を理解してください。**
- **万一、ラベルが摩滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は、販売店から新しくラベルを購入し、「各部の名称」に指示してある箇所に貼り、常にマークが見える状態を維持してください。**

警告表示マーク



使用前に取扱説明書を必ず読み理解すること。

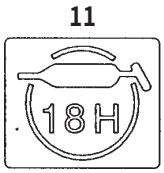


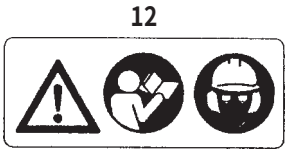
作業中は、目や耳、顔、頭部の保護具を必ず着用すること。

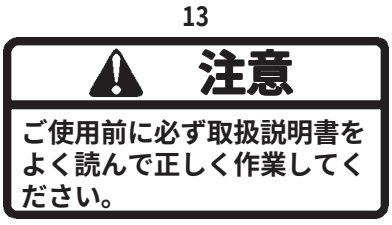
⚠ 注意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。

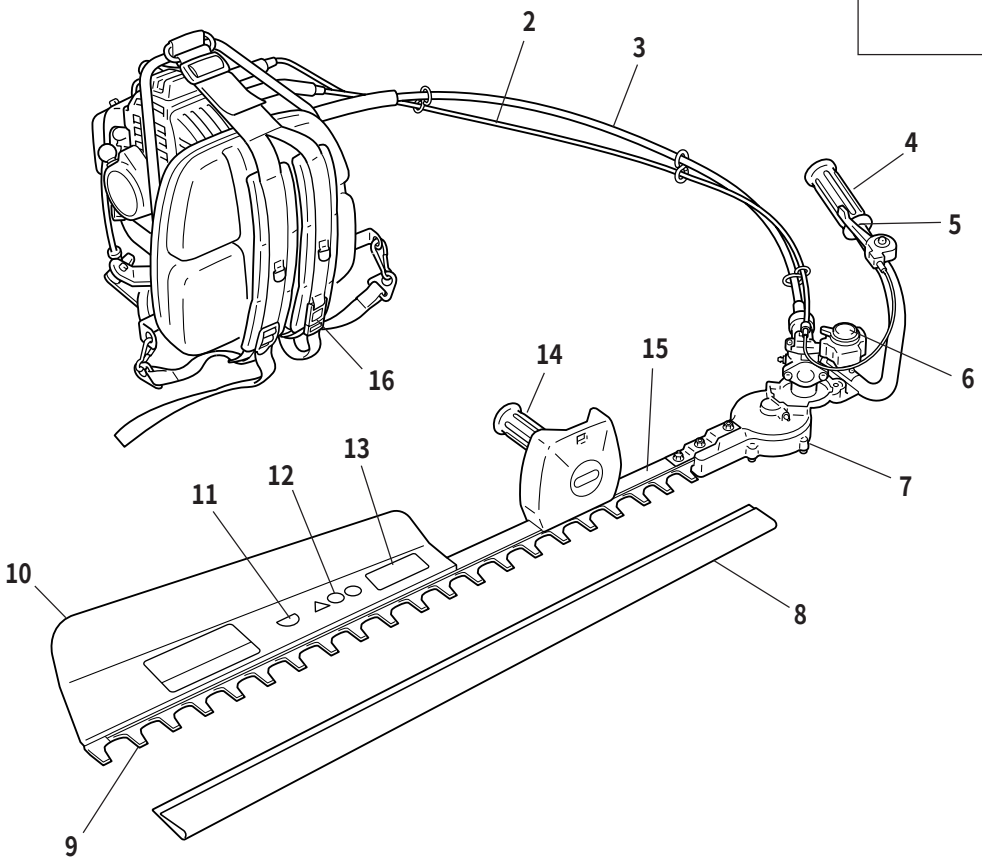
各 部 の 名 称

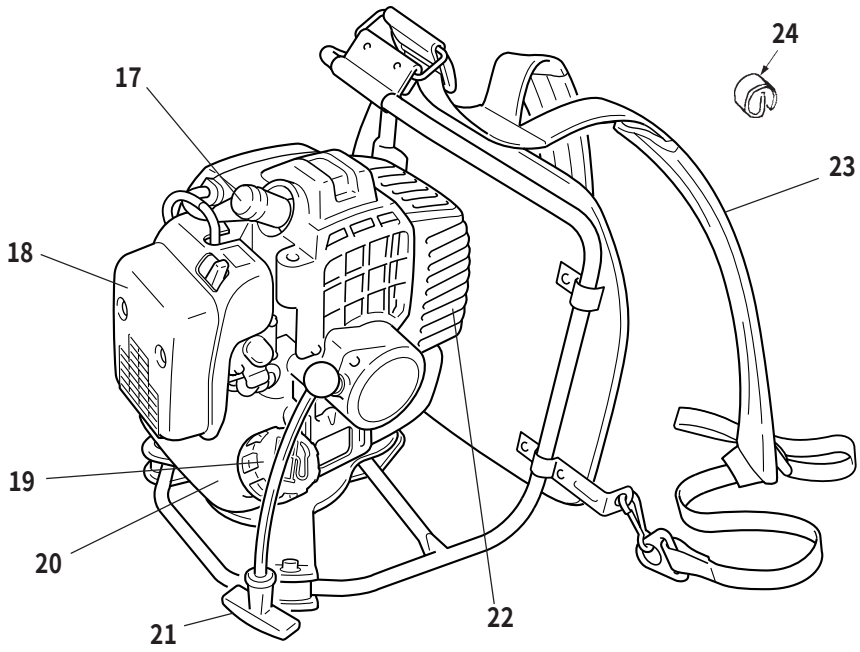

11
18H


12


13
注意
ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。


1
KIORITZ
取 扱 説 明 書
iスタート


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16


17
18
19
20
21
22
23
24

各部の名称とその機能

１．取扱説明書　―機械をお求めになったとき必ず付いています。
機械を使用する前に必ず読んでください。また正しい操作方法を再確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に、必ず保管してください。

２．スロットルワイヤ　―ハンドルのスロットルレバーの作動をキャブレタに伝えます。

３．フレキシブルカバー　―フレキシブルシャフトが入っている部分で自由に曲げることができます。

４．後ハンドル　―スロットルレバー側のハンドルです。

５．スロットルレバー　―エンジン回転数を調節するためのレバーです。

６．ストップスイッチ　―エンジンを停止させるときのスイッチです。

７．ギヤケース　―動力を刈刃に伝達すると同時に、刈刃の組付部ともなります。

８．刈刃カバー　―機械の持ち運び、保管をするときに使用する刈刃のカバーです。
刈刃に合ったカバーを使用してください。

９．カッタ　―生垣・植込の剪定・刈込みに使用する刈刃です。

１０．集草板　―刈刃から刈取った葉や枝の飛散を抑えます。

１１．給油ラベル　―１８時間毎にグリースを給油のこと。

１２．警告表示ラベル　―使用上の重要な事をマークで表わしています。
３ページの「警告表示マークの意味」を参照してください。

１３．注意ラベル　―使用前に取扱説明書を読むこと。

１４．前ハンドル　―刈刃の上に付いた刈取作業用のハンドルです。

１５．プロテクタ　―手元を刈刃から保護するためのものです。

１６．緊急離脱ボタン　―背負バンド（左肩）中間にあるボタンで、押すと背負バンドが肩から外れます。

１７．スパークプラグ　―エンジンの頭部に組付けられ、シリンダ内の混合気に点火するものです。

１８．エアクリーナ　―エンジンに供給される空気をきれいにします。

１９．燃料タンクキャップ　―燃料タンクを密封するふたです。

２０．燃料タンク　―燃料を入れる容器です。

２１．スタータグリップ　―エンジンを始動するときに使用します。*iスタート*

２２．マフラカバー　―消音器（マフラ）をカバーし、作業者が不用意に熱いマフラに触れるのを防ぎます。

２３．背負バンド　―機械を背負うバンドで長さを調節して使用できます。

２４．蜂の巣対策部品　―蜂がマフラ出口に巣を作らないようにするものです。

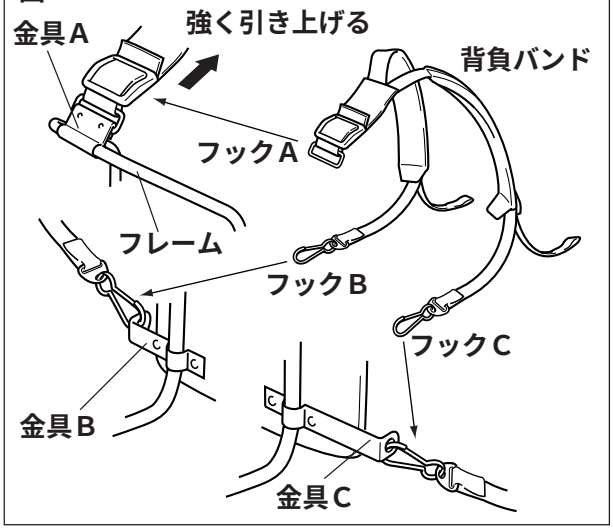
組　　立

⚠ 警告

正しく組立ててください。誤って組立てたものを使用すると、死傷事故を起こす恐れがあります。

- **機械を改造しないでください。**
- **整備不良の機械や、改造した機械は危険ですので使用しないでください。**
- **エンジン単体での始動はしないでください。**

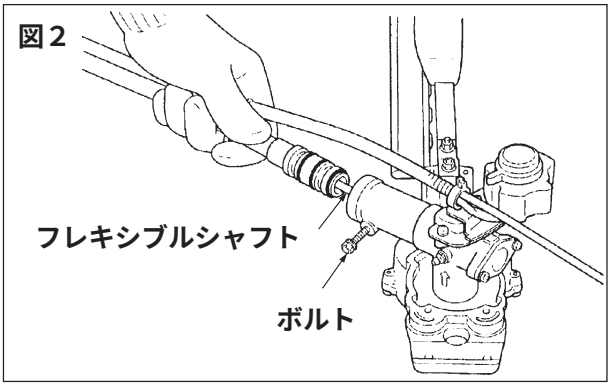
図１



背負バンドの取付

1. **背負バンドのフックAをフレームの金具Aに確実に引っ掛かる位置まで強く引き上げてください。**
2. **背負バンドのフックBをフレームの金具Bにセットしてください。**
3. **背負バンドのフックCをフレームの金具Cにセットしてください。**

図２

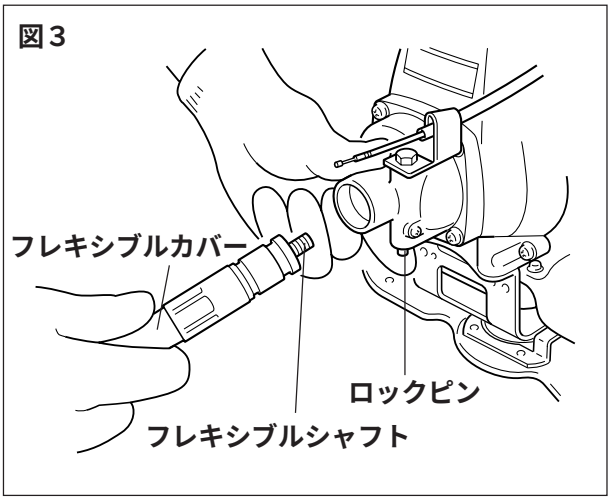


フレキシブルシャフトの組立

駆動軸とフレキシブルシャフトの接続（図２）

1. **ボルトを付属のスパナ（8mm）でゆるめて、外してください。**
2. **フレキシブルシャフトをフレキシブルカバーから少し引き出してから、駆動軸の角形状に合わせて差し込んでください。**
3. **フレキシブルカバーをギヤケースに突き当たるまで差し込んでください。**
4. **ギヤケースのボルトを確実に締込んでください。**

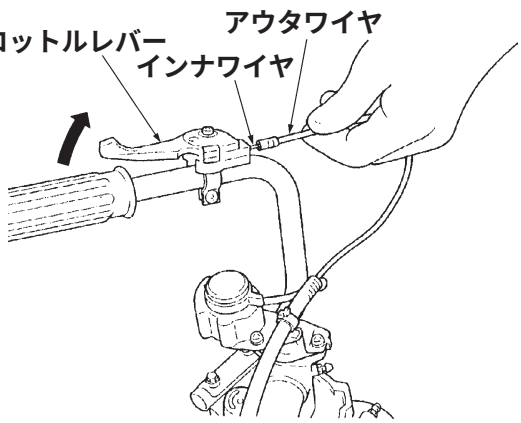
図３



フレキシブルシャフトとエンジンの接続（図３）

1. **ロックピンを一杯まで押してください。**
2. **フレキシブルシャフトをクラッチケース内の駆動軸の角形状に合わせて差し込んでください。事前に、フレキシブルシャフトをフレキシブルカバーから４０mm程出しておくと接続が簡単です。**
3. **フレキシブルカバーをクラッチケースに突き当たるまで差し込んでください。**
4. **ロックピンから手を離し、フレキシブルカバーを引っ張り、抜けないことを確認してください。**

図１

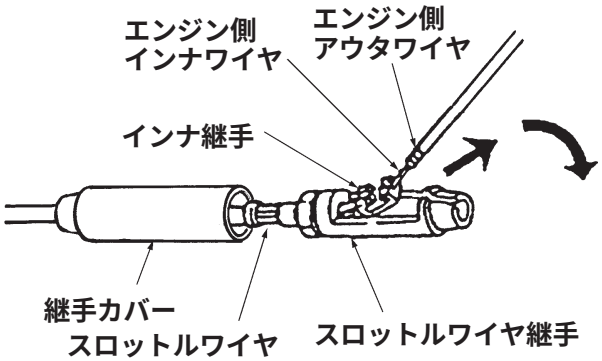


スロットルワイヤの組立

スロットルレバーとスロットルワイヤの接続（図１）

1. スロットルレバー側のインナワイヤの端をスロットルレバーの取付け穴にはめ込みます。
2. インナワイヤをスロットルレバーの溝にはめ込んでください。
3. アウタワイヤの先端をスロットルレバーの穴にはめ込みます。

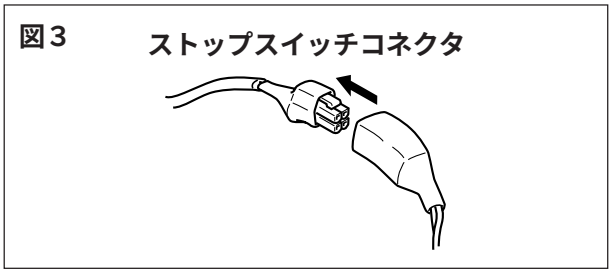
図２



スロットルワイヤの接続（図２）

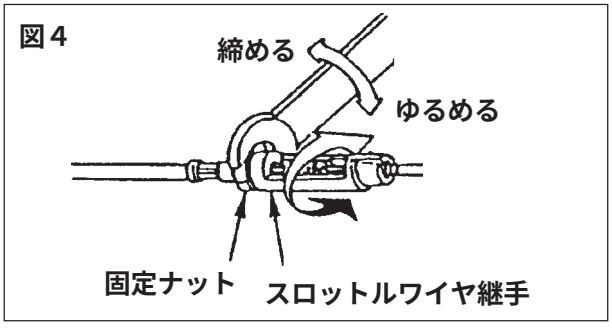
1. 継手カバーを引き、スロットルワイヤ継手を引き出してください。
2. エンジン側インナワイヤ端子をインナ継手に引っ掛けてアウタワイヤを引っ張り、スロットルワイヤ継手にはめ込んでください。
3. スロットルレバーを動かしてワイヤが正常に動くことを確認してから、スロットルワイヤ継手カバーをかぶせてください。スロットルレバーのアイドリング位置で、インナワイヤに２mm程度の遊びが必要です。

図３



ストップスイッチのコネクタを接続してください。（図３参照）

図４



スロットルワイヤ継手の調整

・ 出荷時には適切に動くように設定していますが、スロットルワイヤを動かしても正常に動かなくなったとき、またスロットルワイヤがたるんでいるときは、スロットルワイヤ継手の固定ナットをゆるめ、スロットルワイヤ継手を回してインナワイヤの長さを調整してください。（図４参照）

正しい作業のために

⚠ 注意

- 機械を操作する人は心身ともに健康でなければなりません。
  子供には使わせないでください。
- 夜間や天候不良などの視界の悪いときは作業をしないようにしてください。

⚠ 注意

- 労働省の通達により、一日の使用時間は２時間以内、連続作業時間はおおむね３０分以内にしてください。連続作業後には５分以上の休止時間を取ってください。
- 蜂に気をつけて作業してください。

図１



作業者の体調

- 疲れているときは、機械を使用しないでください。もし、機械使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。
- 酒を飲んでいる人、薬物の影響がある人は、機械を操作しないでください。視覚や敏しょう性、判断力に影響をおよぼします。
- 身体を冷やさないようにしてください。
  特に手首や手指は保温に心掛けてください。

図２



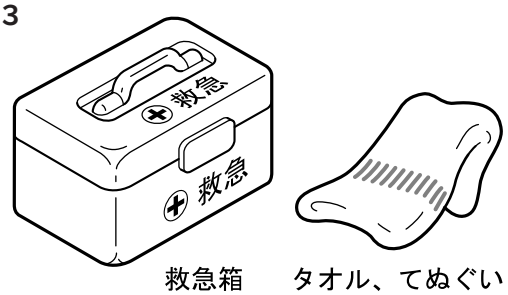
振動と冷え

機械を操作する人の体質によっては、指にレイノー症候群と呼ばれる症状が現われることがあります。これは振動と冷えにさらされることにより起こるとされており、指にチクチクとした痛みや、火傷のようなヒリヒリした痛みを感じ、さらには指先が白くなり感覚がなくなります。
症状の現われる限度が未解明であるため、特に末梢部は温かく保ってください。

反復作業による傷害

指や手、腕、肩の筋肉やすじを使いすぎると、その箇所にズキズキする痛みや腫れ、マヒ、衰弱、激痛が起こるとされています。手で、一定の反復する動きを長く続けると、反復作業による傷害の危険性が高くなります。定期的に休息を取ってください。

図３



救急箱　　タオル、てぬぐい

ケガへの備え

- 万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
  出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。
- 応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

図１

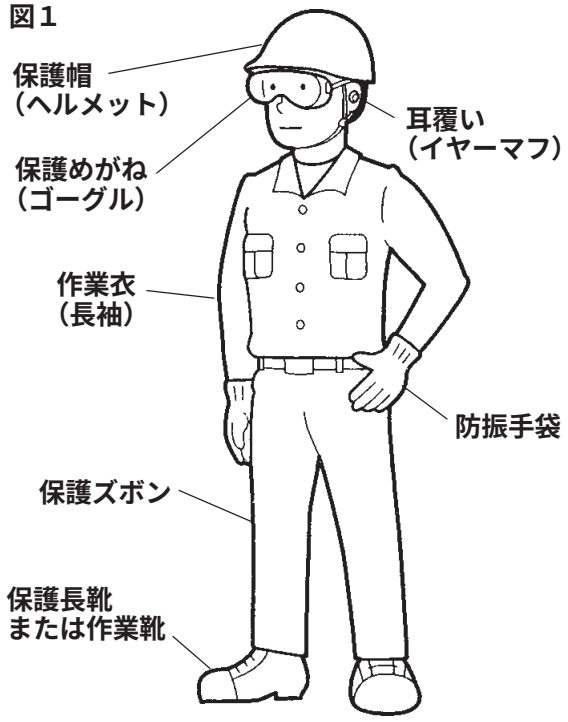
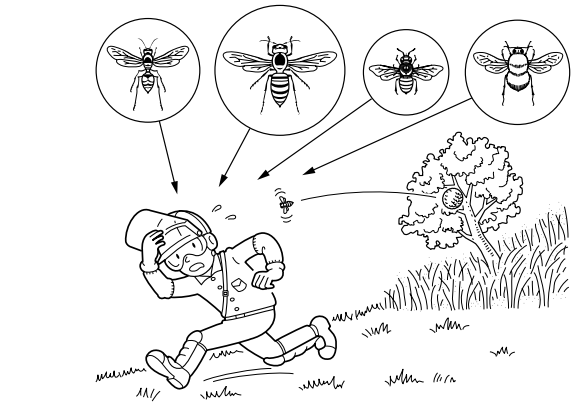


図２



図３　アシナガバチ　スズメバチ　ミツバチ　マルハナバチ



保護具

身体を保護する衣服

身体に合った作業衣（長袖）を着用してください。衣服はボタン、ファスナを完全にし、作業衣のすそはズボンに入れること。袖じまりを良くしてください。フリルや飾りヒモは機械や雑草に絡まる原因になります。ネクタイ、だぶついた服、宝石類は着用しないこと。髪の毛は肩より上でまとめること。

目の保護

この機械を使用する人は、刈刃装置から飛んで来る物に対してだけでなく、空中のホコリや、種、花粉などから目を保護するものを身に付けなければなりません。

日常、めがねを使用している人は、そのめがねの上から保護めがね（ゴーグル）などの目を保護するものを付けてください。

耳の保護

長時間大きな音を聞いていると聴覚が弱くなったり、聞こえなくなったりする原因となります。

耳覆い（イヤーマフ）や耳栓などの聴覚を保護するものを着用して騒音から耳を保護してください。

頭部の保護

頭上の木の枝や、落下物の危険性に対して、保護帽（ヘルメット）を使用し頭部を保護してください。

手の保護

防振手袋を着用してください。柔らかい革のものは、握りをより確実なものにできます。

脚全体の保護

底に滑り止めの付いた丈夫な保護長靴か、作業靴を着用してください。つま先のあいた靴、サンダルやはだしで作業しないでください。

身体の保護のためのその他の事項

- 蜂が近づいて来たら、速やかに危険区域から遠ざかること。蜂は頭部や顔をねらって来るので、防蜂網は効果があります。特に蜂アレルギーの人は必ず着用し、防護手袋なども使用します。
- アレルギー性鼻炎（花粉症）などの症状が出やすい人は、薬局などで売っている使い捨ての防塵マスクを付け、アレルギーを起こす花粉などを極力吸い込まないようにしてください。

操　作　方　法

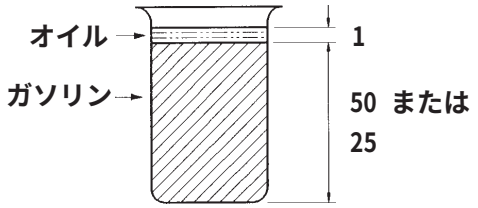
⚠ 警告

・引火しやすいので、燃料の取扱いは火災に充分注意してください。
燃料の補給中にタバコを吸ったり、火花を出したりしないでください。
・エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
・作業中、万一、エンジンから発火または発煙したら、まず、緊急離脱ボタンを押し、機械を身体から離し、身体の安全を確保してください。
（１３ページ図２、３参照）

⚠ 注意

燃料を補給する際はポンプを使用し、機体が安定した状態で給油口からこぼれないように注意して補給してください。（１１ページ図１参照）
傾斜地では補給しないでください。
機械に燃料が少しでもこぼれたら、必ず拭き取ってください。

図１



ガソリン	２サイクルエンジンオイル	
L	mL	
	５０：１	２５：１
４	８０	１６０
８	１６０	３２０
２０	４００	８００

図２

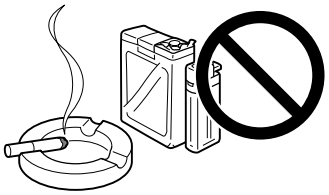
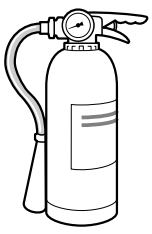


図３



シャベルまたは消火器を用意する

燃料の取扱い

重要

・混合燃料の長期保管は劣化しやすいので、燃料は使用する分量だけ混合してください。
燃料の混合は、機械の燃料タンクで行なわないでください。
・燃料タンク、燃料タンクキャップ、燃料タンクブリーザ、燃料パイプなどは使用前に点検し、異常が発見された場合は使用せず交換してください。
・ＪＡＳＯ性能分類：２サイクルエンジンオイルの潤滑性能順にＦＣ、ＦＢ、ＦＡの３種類に分類し表示します。
共立純正２サイクル専用オイルは「ＦＣ」で、混合比「５０：１」で使用します。

●本機の燃料にはレギュラーガソリンと、２サイクルエンジンオイルを混合した燃料を使用してください。
正しくない燃料はエンジン機能不良の原因となります。

●燃料の混合比は、２サイクルエンジンオイルの種類により下記の通り使用してください。

・共立純正２サイクル専用オイル　;[５０：１]
ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ

・２サイクルエンジンオイル　;[２５：１]
ＪＡＳＯ性能分類　ＦＢ、ＦＡ

●ガソリンとオイルの混合はガソリン用の容器を使用し、よく混合してください。

●自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

図１

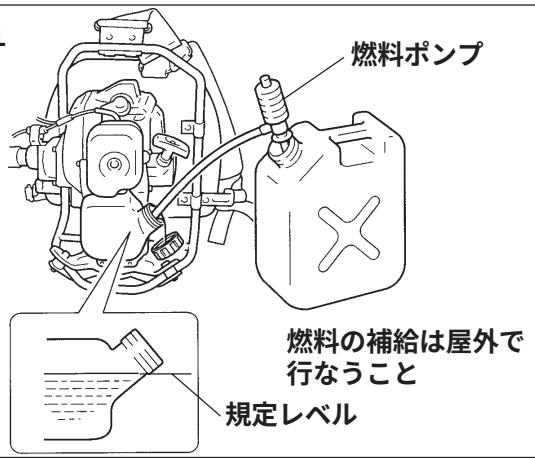
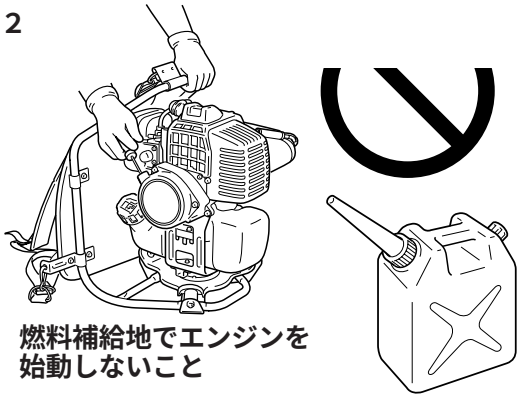


図２



⚠ 警告

- エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。屋内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。
- 機械を障害物のない地面に置き、刈刃が地面や他の物に触れないことを確認してください。
- 空中で始動したり、背負ったまま始動しないでください。機械が思わぬ方向に動き、負傷することがあります。

図３



- 燃料タンクには、外気との間に圧力差が生じています。
  燃料を補給するときは、燃料タンクキャップをすこしゆるめて、圧力差を取除いてください。
- 燃料タンクに燃料を補給するときは、屋外の舗装されていない地面の上で行なってください。
  屋内では燃料を補給しないでください。
- エンジンが熱いときや、エンジンを始動したままでの燃料補給は絶対にしないでください。
- 燃料タンクの横に指示した[ＭＡＸ　ＬＥＶＥＬ]の線以上に給油しないでください。このレベル以上に給油すると、使用時気化器から燃料が漏れることがあり、火災の原因になります。
  必ず規定レベル以下に補給してください。
- 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。
- エンジンを始動する前に、燃料を補給した場所から３m以上移動してください。
- 燃料タンクに燃料が残っている状態で機械をしまわないでください。燃料漏れがあった場合、火災の原因となります。

エンジンの始動と停止

⚠ 注意

- エンジンを始動する前に、ボルトやナット、ネジが締まっているか確認してください。
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- エンジンを始動する前に刈刃をチェックしてください。ヒビの入った刈刃、破損している刈刃は使用せず、新品と交換してください。
- 燃料が漏れていないか確認してください。
  燃料が漏れている場合は、エンジンを始動せずにお買い求めの販売店にご相談ください。
- 機械の周囲は充分に広くとり、人、動物は近づけないこと。また、障害物がないことを確かめてから始動してください。
- 機械は地面にしっかりと押え、始動してください。
- エンジンの始動時、スロットルレバーを低速の位置にしておいても、刈刃が動く場合には１９ページを参照しながらキャブレタを再調整して使用してください。
- エンジンが停止しないときはチョークを閉じると停止します。機械を再び使用する前に、ストップスイッチの点検をしてください。

重要

- スタータグリップを引くときは、まず軽く引き出し更に素早く引いてください。引き紐の２／３以上は引き出さないでください。
- スタータグリップを戻すときは、途中で手から離さないでください。

⚠ 警告

スロットルレバーを低速位置にしないでエンジンを始動すると、刈刃が動き始めます。エンジンの始動、停止時、作業を中断するとき、移動のときは、必ずスロットルレバーを低速の位置にしてください。

重要

- **アイドリング（低速回転）に戻さずにチョークストップなどでエンジンを停止すると、故障する恐れがあります。**
- **緊急時以外は必ずアイドリング（低速回転）状態にして停止してください。**

図１

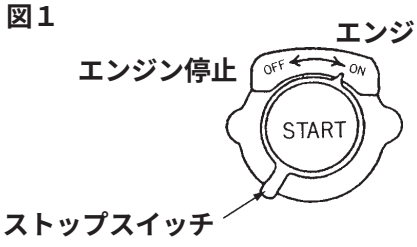


図２

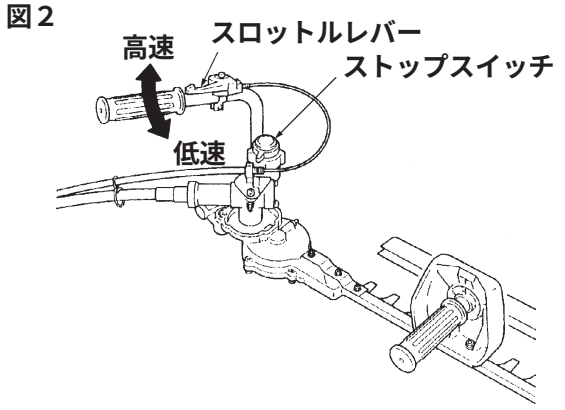
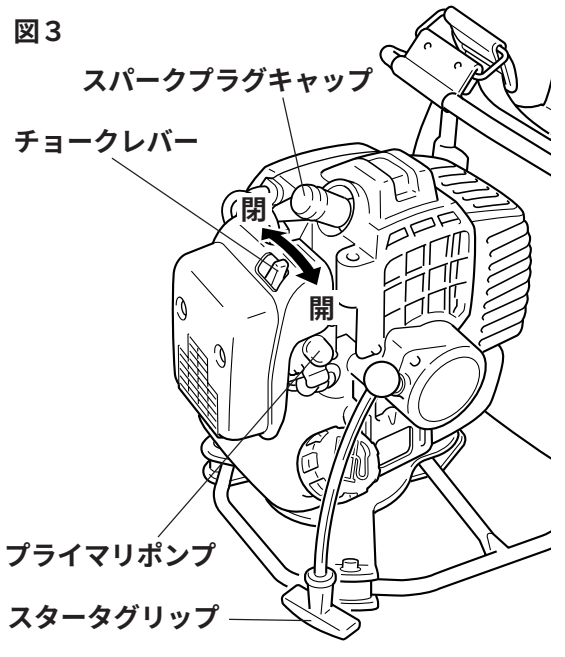


図３



エンジンの始動には、冷えたエンジンの場合と暖まっているエンジンの場合があります。
エンジンの状態を確認の上、各々の始動の手順に従って始動してください。
順序を間違えると始動が困難になる場合がありますので注意してください。

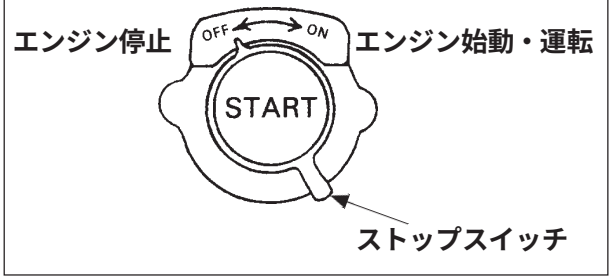
冷えたエンジンの始動

1. ストップスイッチを始動（ＯＮ）の位置にします。（図１参照）
2. スロットルレバーを低速の位置にします。（図２参照）
3. チョークレバーを閉の位置にして、チョークを閉じてください。（図３参照）
4. プライマリポンプを５～６回くり返し、押してください。
5. 機械をしっかり押え、スタータグリップを最初の爆発音がするまで数回引いてください。
6. 爆発音がしたらチョークレバーを開にして、更にスタータグリップを引き始動させてください。すぐにエンジンが始動したときは、チョークレバーを徐々に開の位置にしてください。
7. 始動したら低速のままでしばらく暖機運転をしてください。
8. 作業を開始するときは、スロットルレバーを高速側に動かし、作業に合わせて回転数を調節してください。

暖まっているエンジンの始動

1. ストップスイッチを始動（ＯＮ）の位置にします。（図１参照）
2. スロットルレバーを低速の位置にします。（図２参照）
3. チョークレバーは開位置にしてください。
4. 燃料タンクがカラでなければスタータグリップを引いてください。
5. 燃料タンクがカラの場合は、燃料補給をした後、プライマリポンプを５～６回くり返し、押してください。
6. スタータグリップを引いてください。

図１



エンジン停止

1. **スロットルレバーを低速の位置にし、エンジンをアイドリング（低速回転）状態にしてください。**
2. ストップスイッチを停止の位置（ＯＦＦ）にしてください。（図１参照）
3. 緊急の場合は、直ちにストップスイッチを停止の位置にしてエンジンを停止してください。
4. エンジンが停止しないときは、チョークを閉じてください。エンジンは失速し停止します。
   機械を再び使用する前に、お買い求めの販売店にストップスイッチの点検と修理を依頼してください。

長期に機械を使用しないときは、必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（１２ページ図３参照）

図２



図３



図４



基本的な作業方法

⚠ 警告

- 緊急離脱装置が正常に作動するか、確認してください。正常に作動しない場合は、新しいものと交換してください。
- 緊急の場合、緊急離脱ボタンを押し、機械を身体から離すこと。（図２参照）
- 背負バンド着用時、刈刃を地面に触れないようにし、またスロットルレバーを引いてエンジン回転を上げないようにしてください。
- 刈刃に何かが絡まって動きが止まっても、エンジンは回転し続けます。この場合、必ずエンジンを停止して、絡まったものを取除いてください。エンジンを停止せず刈刃に絡まっている物を取除くと刈刃が動き出し、ケガの原因になります。
- 常に両手でハンドルを握り、機械を使用してください。絶対に片手で使用しないでください。

重要

- このヘッジトリマーは枝の直径が５mm以下の低木、あるいは生垣用に設計されています。
- 刈込みを開始するときには、エンジンを高速回転させてください。低い回転で刈込むと、クラッチが滑り、故障の原因となります。

● 非常の場合、緊急離脱ボタンを押すと、一気に左の背負バンドが外れますので、それから動力部を右肩から、落ち着いて外してください。

● 機械を保持するときは、必ずハンドルに親指を掛け、他の指とともにハンドルを囲むように握ってください。
右手で前ハンドル、左手で後ハンドルをつかんでください。（図４参照）

図１



●エンジン始動後、スロットルレバーを高速側にすると、エンジンの回転速度が上がり、刈刃が動き始めます。刈込む生垣などの程度によって回転速度を調節してください。

●ご購入後、はじめてこのヘッジトリマーを使用するときは、最初の２時間はエンジンの回転数をあまり上げないようにしてください。

●生垣などの上の方を刈るときは、刈刃を左右へ動かしながら刈込みます。刈刃をわずかに下へ向けながら動かすと、刈りそろえがうまくできます。集草板の上に落ちた葉などを生垣の中に落とさないように刈込んでください。（図１参照）

●横側を刈るときは、刈刃を下から上へ動かしながら刈込むと、刈りそろえがうまくできます。（図２参照）

図２



作業上の注意

⚠ 警告

・傷害を起こす危険がありますので作業中は危険ゾーンに誰も入らせないでください。危険ゾーンは作業者を中心に半径１５mの範囲です。

・刈刃が動いているときには、絶対にハンドルから手を離さないでください。

⚠ 注意

・スロットルレバーを低速の位置にしても刈刃が動く場合は、すぐに使用を中止しキャブレタを再調整してください。（１９ページ参照）

・作業中や機械を持ち運ぶときは、火傷などしないように高温部には充分注意してください。

・作業を中断したり移動するときは、必ずエンジンを停止してください。また持ち運び時は刈刃カバーをしてください。

重要

刈取り作業を行なわないときはエンジンを空転させないでください。

図３　半径１５mの範囲は危険ゾーン



●機械を中心に半径１５mの範囲に子供や見物人、ペットがいないことを確認してください。
誰かが１５m以内に近づいてきたら、直ちにエンジンを停止し、刈刃を止めてください。（図３参照）

●作業を補助する人、共同作業をする人もお互いに合図のしかたを決めて、１５m以上離れて作業してください。
連絡用に、呼子（笛）を携帯することをおすすめします。

図1

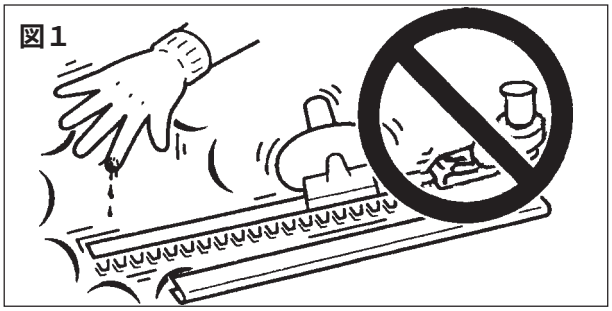


図2

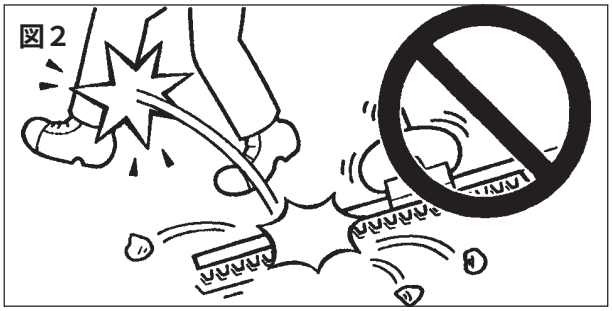


図3

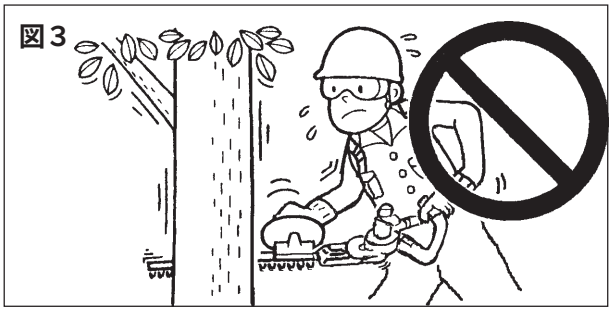


図4

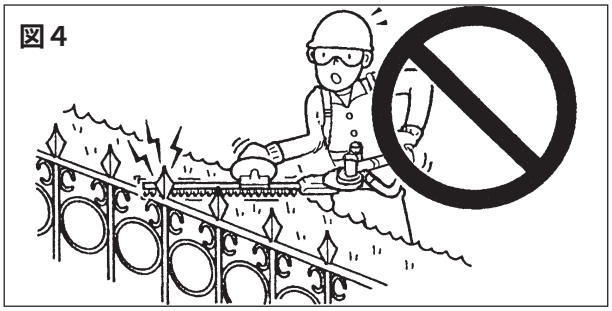


図5

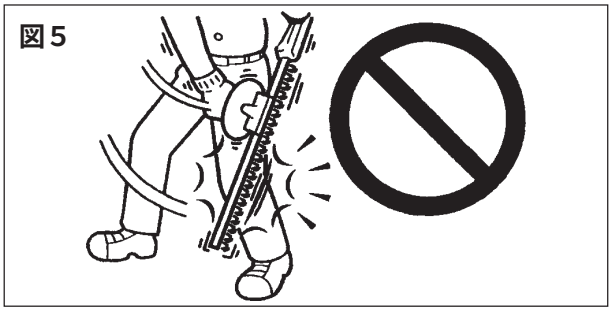


図6



●視界が悪く、暗い場所では、機械を絶対に操作しないでください。
雨降り、雨上がり、強風のとき、夜間には使用しないでください。

●機械が突然異常な振動をしたら、直ちにエンジンを停止してください。
突然の振動は、フライホイール、クラッチ、刈刃などの故障や、ネジのゆるみなどが原因です。
故障の原因がわかり、修理が終るまで機械を使用しないでください。

●エンジンを停止したときは、機械を地面に降ろす前に刈刃が停止したことを確認してください。
エンジンが停止していても、刈刃が惰性で作動中はケガをすることがあります。（図１、２参照）

●エンジンが熱いうちは、火傷を防ぐため、マフラ（消音器）に身体を近づけないでください。
機械を持ち運ぶときは、必ずエンジンを停止し刈刃カバーを付けて移動してください。
マフラ（消音器）は熱くなっていますので、身体に接触させないよう身体から離して持ち運んでください。

●刈刃を木などに押し付けたりしないでください。
刈刃の動きと速度に合わせて操作してください。
（図３参照）

●もし枝などが刈刃に絡まったら、エンジンを停止して刈刃から枝などを取除いてください。
針金や鉄板など硬いものを切らないようにしてください。故障や事故の原因となります。
（図４参照）

●刈込みは刈刃を身体から外に向けて行なってください。
刈刃を自分の方に向けたり、身体に近づけたりしないでください。（図５参照）

●手をのばしたまま、あるいは足元が不安定な場所でヘッジトリマーをご使用にならないでください。
はしごや台の上で使用しないでください。
（図６参照）

●もし刈刃が障害物にぶつかったり、正常に作動しない場合、エンジンを停止し刈刃に損傷がないか点検してください。

点　検・整　備

⚠ 注意

・点検・ 整備をする前に必ずエンジンを停止し、冷えた状態でスパークプラグキャップを外して作業してください。（２０ページ図１参照）
・発火テストは、シリンダのプラグ穴の上ではしないでください。シリンダ内の混合気に引火し、火傷の恐れがあります。

整備の目安

●製品を調子良く、安全に使用するために定期的に点検・整備をしてください。

整備の時期	整備個所	整備の内容
使用前	ネジ、ナット	損傷と締まり具合の目視検査
	エアフィルタ	清掃（１６ページ参照）
	燃料フィルタ	清掃（１６ページ参照）
	冷却風通路	清掃（１７ページ参照）
	刈刃	損傷、切れ味、締まり具合の確認
	集草板	損傷、取付具合の確認
エンジン始動時	スロットルレバー	機能確認（１２ページ参照）
	ストップスイッチ	機能確認（１３ページ参照）
作業１８時間毎	フレキシブルシャフト	グリース塗布（１８ページ参照）
	ギヤケース	グリース注油（１７ページ参照）
１ケ月毎	スパークプラグ	目視点検、必要な場合は交換（１７ページ参照）
長期保管（６０日間以上）	燃料タンク	燃料をカラにする（２０ページ参照）
	ネジ、ナット他	増し締めなど（２０ページ参照）

重要

・エアフィルタが非常に汚れていたり、破損している場合は交換してください。
・エンジン冷却風の入口や、シリンダフィンにゴミなどが詰まりますとエンジン焼き付きの原因となります。

図１

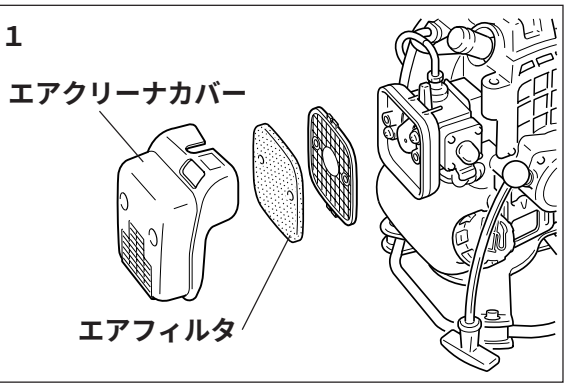
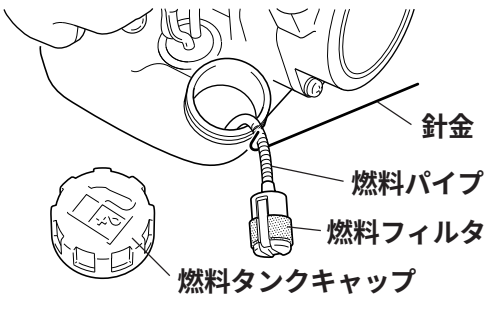


図２



点検要領

リコイルスタータの点検（分解禁止）

●スタータグリップが軽く引けない場合、エンジン内部の故障ですので、分解せずにお買い求めの販売店へご相談ください。

エアフィルタの清掃

ご使用前に点検してください。（図１参照）
1. チョークを閉じてから、取付ネジをゆるめ、エアクリーナカバーを外してください。
2. エアフィルタを外してください。
3. 汚れをブラシで落とすか、中性洗剤で洗ってください。洗剤を使用した場合は、充分に水洗いをし、よく乾かしてください。
4. エアフィルタを元の位置に取付けてください。
5. カバーを取付け、取付ネジを締めてください。

燃料フィルタの交換

ご使用前に点検してください。（図２参照）
1. 燃料タンクキャップを外してください。
2. 針金などで燃料フィルタを引っ掛け、燃料タンクの給油口から取出してください。
3. 燃料フィルタ部分が黒く硬くなっている場合は汚れていますので交換してください。
4. 燃料パイプから抜き取って新しい燃料フィルタと交換します。
5. 燃料タンクの給油口から燃料フィルタを入れて、燃料タンクキャップを締めてください。

図１

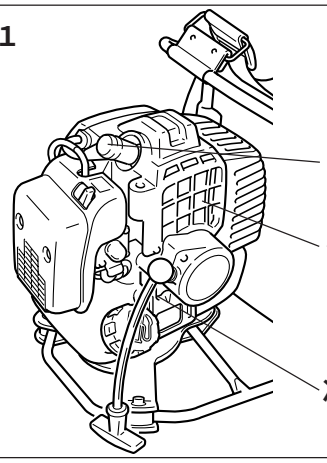
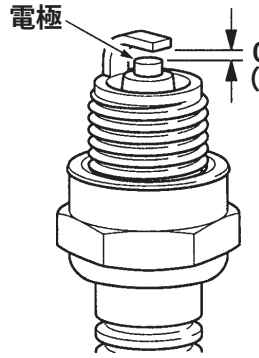


図２



燃料パイプ、燃料グロメット、
燃料タンクガスケット

●ご使用前に燃料を補給した後、燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンクキャップ周辺から燃料の漏れ、にじみがないことを確認してください。

●燃料の漏れ、にじみがある場合は、火災の危険がありますので、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検、交換を依頼してください。

●燃料パイプ、グロメット、ガスケット類を取付け、取外しするときは、傷をつけないように、先端が鋭利な工具類は使用しないでください。
また、取付け後は各部から燃料の漏れ、にじみがないことを必ず点検してください。

冷却装置の整備

ご使用前に点検してください。（図１参照）

●シリンダフィンの間のゴミと汚れを取除いてください。

●エンジンの底部と燃料タンクの間にある冷却風の入口の周りに付いた、ゴミなどを取除いてください。

スパークプラグの点検

月に一度は点検してください。（図２参照）

1.付属のソケットレンチ（１９mm）でスパークプラグを外してください。

2.電極が減っているとき、すき間不良のとき（正しいすき間は０．６～０．７mm＝ハガキ３枚分の厚さ）、また電極の周囲にオイルや堆積物が付いているときは、新しいプラグと交換してください。

3.スパークプラグは、付属のソケットレンチでしっかり締付けてください。
参考：　締付けトルクは１５～１７N・m
（１５０～１７０ kgf・㎝ ）です。

ギヤケース

作業１８時間毎にギヤケースグリースを注油してください。（総量２５ｇ）

●共立純正ギヤケースグリースをグリースニップルからグリースポンプで補給してください。
共立純正ギヤケースグリース
部品番号：Ｘ６９５－００００２０

図１

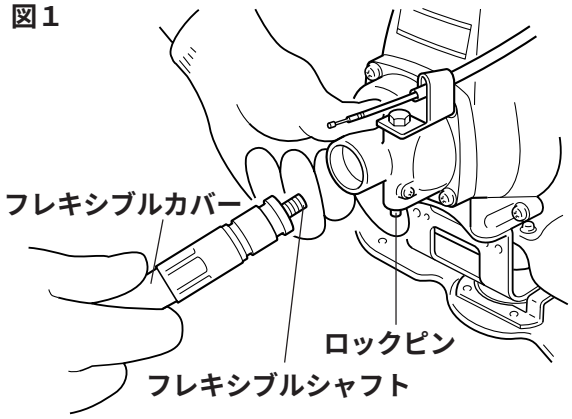
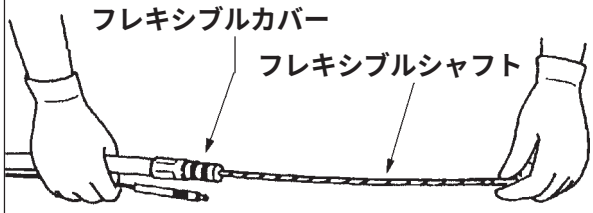


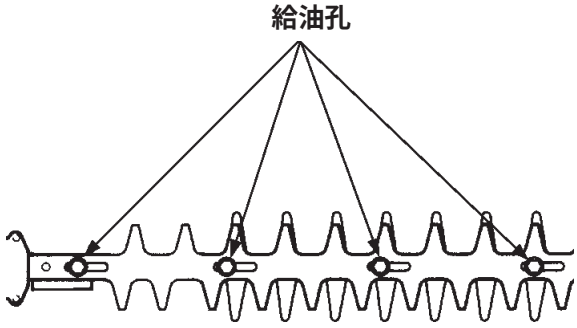
図２



⚠ 注意

不用意に刈刃に触れてケガをすることがないように手袋をして作業してください。

図３



フレキシブルシャフトの整備

- **フレキシブルシャフトの表面全体には、常に適度のグリースを塗っておいてください。**
- **工場出荷時には、グリースが塗布されていますので、以後は約10ｇのグリースを作業18時間毎に塗布してください。**
- **分解組立てに必要な点は以下の通りです。**
  - **エンジンに付いているロックピンを一杯まで押し、フレキシブルカバーをエンジンから引き出してください。（図１参照）**
  - **次に、フレキシブルシャフトをフレキシブルカバーから引き出してください。（図２参照）**
  - **ギヤケースに使用するのと同じグリースを使用してください。**
  - **組立ての際には、フレキシブルシャフトを分解前と逆向きに取付けてください。**

マフラの点検

- **マフラの締付けボルトにゆるみがないか確認してください。ゆるみがある場合には、付属の六角レンチで増し締めをしてください。**

刈刃の手入れ

重要

上下の刈刃のすきまは出荷時に刈刃下のボルトで調整してあります。
ご自分で調整しないでください。

刈刃の掃除

刈刃に樹脂のような汚れが付いた場合は軽油とオイルを１：１の割合で混合したもので、刈刃の汚れを洗い落としてください。

刈刃の給油

作業４時間毎に給油してください。
刈刃を固定しているボルトの部分にオイルを２、３滴たらしてください。（図３参照）
刈刃の刃先が摩耗したり、上下の刈刃のすきまがくるうと切れ味がわるくなります。
その場合、お買い求めの販売店にご相談ください。

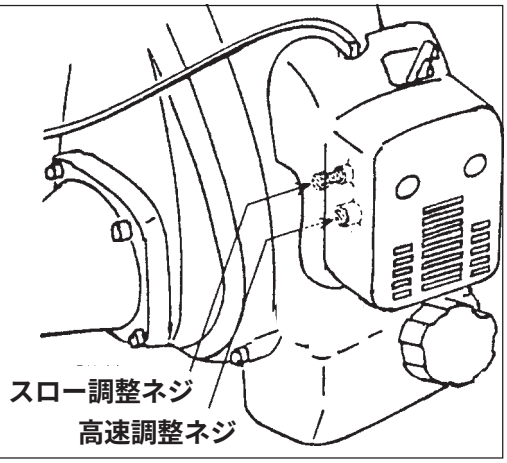
⚠ 注意

アイドリング（低速回転）のときに刈刃が動かないようにキャブレタを調整してください。
思わぬケガをすることがあります。

重要

・工場出荷時にキャブレタは最高の性能が引き出せるよう設定されていますが、次のような場合にはキャブレタの調整をしてください。
　1．エンジンが始動しない
　2．エンジンが停止する
　3．アイドリング時も刈刃が動いている
・高速調整ネジ、スロー調整ネジを締めすぎないこと。強く締めすぎるとキャブレタを破損します。

図１



キャブレタの調整

キャブレタ調整を行なう前に、エアクリーナの清掃／交換を行ない、エンジンを数分間運転してください。

スロー調整ネジ

●アイドリング（低速回転）の回転数を調整するときは、キャブレタ本体のスロー調整ネジを回して調整してください。（図１参照）
　スロー調整ネジを右に回して刈刃が動きはじめるところから１回転程度戻してください。

高速調整ネジ

●燃料と空気の混合割合が適正でない場合は回転不調となります。
●回転不調の場合は、高速調整ネジを静かに回して調整します。
　調整の標準は、高速調整ネジを全閉にしてから、反時計方向へ ２±$^{1}/_{4}$ 戻してください。

調整してもエンジン回転不調の場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

故障診断と対策

⚠ 警告

交換・清掃・調整してもトラブルが解消しないときは、お買い求めの販売店へご相談ください。

エンジンの調子が悪く故障診断するときは、まず次のことを確認してください。
- ●燃料タンクに燃料が入っていること。
- ●ストップスイッチが始動の位置にあること。

トラブル	故障診断	原因	対策
エンジンが始動しにくい また回転が変動する	オーバーフローパイプに燃料がくる	●燃料の変質 ●キャブレタに不良	●交換 ●販売店へ
	オーバーフローパイプに燃料がこない	●燃料フィルタの目詰まり ●燃料系統の目詰まり ●キャブレタに内部の固着	●清掃か交換（１６ページ） ●販売店へ ●販売店へ
	スパークプラグが汚れている、または濡れている	●燃料の変質 ●電極の隙間が正しくない ●カーボンが付着している ●電気的障害	●交換 ●交換（１７ページ） ●交換（１７ページ） ●販売店へ
エンジンが始動しない		●電気的障害 ●キャブレタ不良、内部固着 ●エンジン内部の故障	●販売店へ ●販売店へ ●販売店へ
エンジンは始動するが加速できない		●エアフィルタの汚れ ●燃料フィルタの汚れ ●燃料通路の詰まり ●キャブレタ調整不良 ●排気口／マフラ出口が詰まっている	●清掃か交換（１６ページ） ●清掃か交換（１６ページ） ●販売店へ ●調整（１９ページ） ●清掃
エンジンが停止しない		●ストップスイッチ不良	●応急停止（１３ページ）後、販売店へ
アイドリング状態で刈刃が動く		●キャブレタ調整不良 ●クラッチバネ破損	●調整（１９ページ） ●販売店へ
エンジンが停止する		●キャブレタ調整不良 ●電気的障害	●調整（１９ページ） ●販売店へ

保　　管

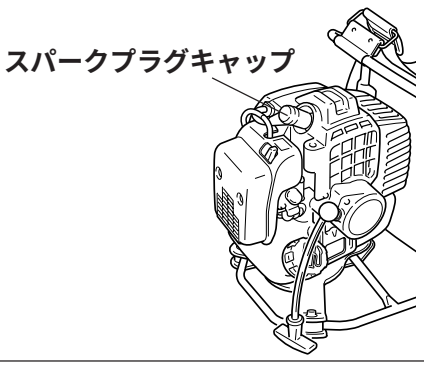
⚠ 警告

燃料ガスが充満している密閉された場所や、裸火、火花のある場所に保管しないでください。

重要

この取扱説明書は、いつでも読めるよう保管してください。

図１



長期保管（60 日間以上）

機械を長期間（60日以上）にわたって保管する場合は、以下に示す保管の際の整備を必ず実施してください。
- ●機械の外側に付いたグリース、オイル、ホコリ、ゴミなどをきれいに拭き取ってください。
- ●混合した燃料は完全に使いきり、キャブレタや燃料パイプに残っている燃料も低速で運転して使いきってください。
- ●スクリュ、ナット類が締まっているか確認してください。
  ゆるんでいる場合は、増し締めしてください。
- ●刈刃は刈刃カバーを付けてください。
- ●機械を乾かし、子供の手の届かないホコリのない場所に保管してください。
- ●必ずスパークプラグキャップを抜き、エンジンが始動しないようにしてください。（図１参照）

仕　　様

項目	単位	型　式　名 RMEHT260
質量		
エンジン部（燃料除く）	kg	５．３
刈刃ユニット	kg	４．２
エンジン部、刈刃ユニット	kg	９．５
容量		
燃料タンク	L	０．８５
刈刃ユニット		
形式		H260
歯車減速比および潤滑剤		減速比　５．８８ 共立純正ギヤケースグリース（部品番号：X695-000020）
刈刃	mm	７００
外形寸法		
本体（長さ×幅×高さ）	cm	３１×３６×３６
刈刃装置（長さ×幅×高さ）	cm	１２５×２２×２４
エンジン		
形式		RMEHTB260 空冷２サイクル単シリンダ
排気量	mL	２５．４
最大出力時エンジン回転数	r/min	７，５００
最大エンジン回転数	r/min	１１，０００
アイドリング回転数	r/min	３，０００
クラッチ作動開始エンジン回転数	r/min	３，８００～４，２００
キャブレタ形式		ＴＫダイヤフラム
点火方式		フライホイールマグネト：ＴＣＩ方式
スパークプラグ		ＮＧＫ　ＢＰＭ７Ｙ
始動方式		リコイルスタータ　iスタート
動力伝達方式		自動遠心クラッチ
燃料混合比		[レギュラーガソリン：２サイクルエンジンオイル] ・共立純正２サイクル専用オイル ＪＡＳＯ性能分類　ＦＣ　;[５０：１] ・２サイクルエンジンオイル ＪＡＳＯ性能分類 ＦＢ、ＦＡ　;[２５：１]
最大エンジン出力時燃料消費量	L/h	０．６７

＊この仕様は予告なしに変更することがあります。

株式会社 共立

東京都青梅市末広町 1-7-2　〒 198-8711　☎0428-32-6181

北海道共立エコー株式会社
札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　〒 004-0041　☎011-891-2249(代)

東北共立エコー株式会社
仙台市若林区卸町東 5-1-50　〒 984-0002　☎022-288-0511(代)

東部共立エコー株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-1091(代)

中部共立エコー株式会社
愛知県西春日井郡西枇杷島町宮前町 1-39　〒 452-0031　☎052-502-4111(代)

西部共立エコー株式会社
岡山市藤田 566-159　〒 701-0221　☎086-296-5911(代)

九州共立エコー株式会社
大野城市白木原 5-3-7　〒 816-0943　☎092-573-5361(代)

エコーレンテックス株式会社
青梅市末広町 1-7-2　〒 198-0025　☎0428-32-6777(代)

◎ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X750-002 32 1
X750219-610 1